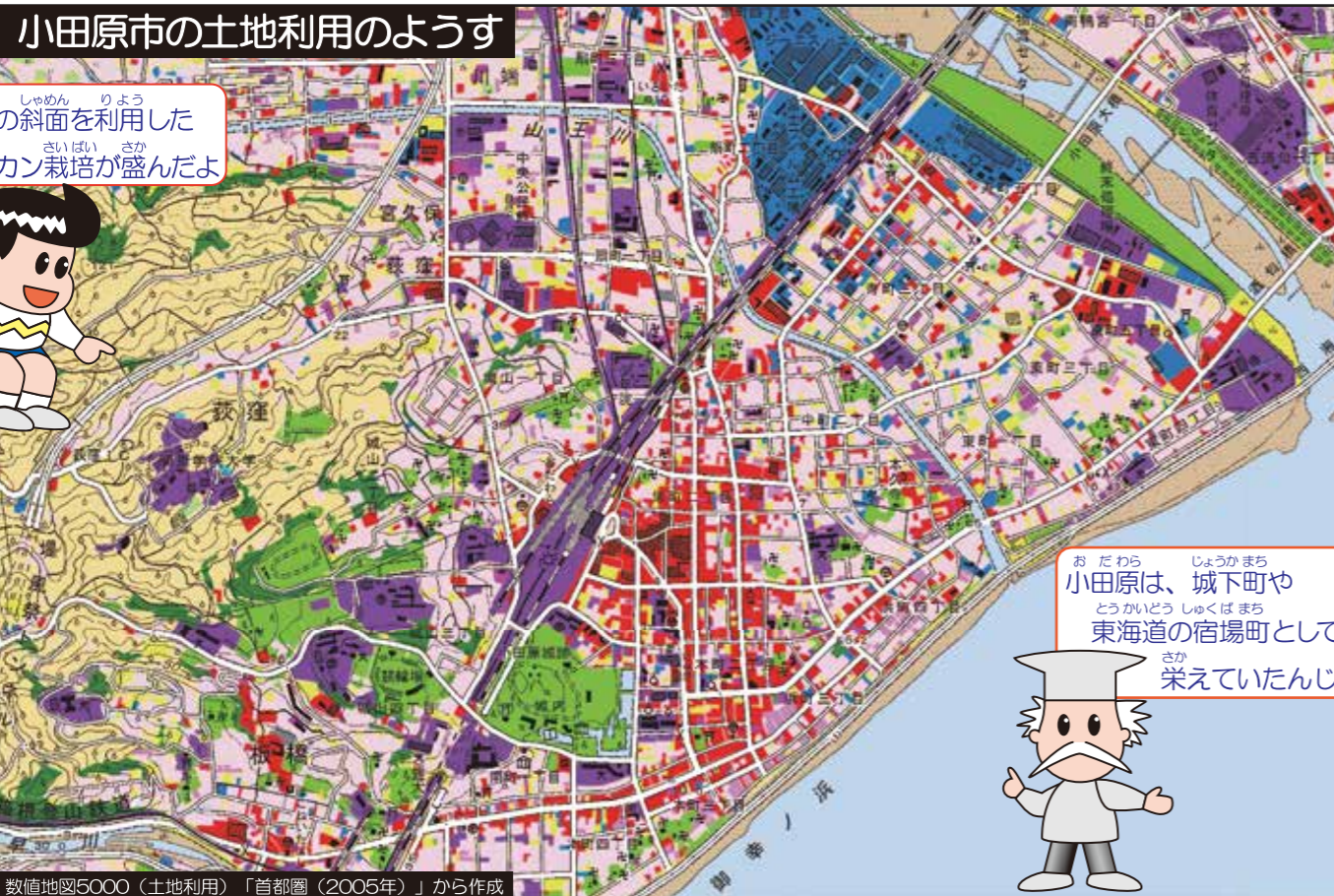


# 地図で土地のようすを調べる

地形図を使って、土地のようすを調べてみましょう。建物や施設の使われ方や植物の種類などを同じ項目ごとに色でぬり分けると、その地域の特徴がよくわかります。また、昔の地図と今の地図をくらべると土地のようすの変化がよくわかります。

## 小田原市の土地利用のようす

山の斜面を利用した  
ミカン栽培が盛んだよ



小田原は、城下町や  
東海道の宿場町として  
栄えていたんじや



数値地図5000（土地利用）「首都圏（2005年）」から作成

- オフィス・店舗、商店街
- 住宅地
- 官公署、学校、公共公益施設
- 工場
- 公園緑地、運動施設
- 空き地
- 水田
- 畑、果樹園
- 山林

## 「浮島」は本当に島だった

茨城県の稲敷市に「浮島」と呼ばれる地域があります。昭和時代のはじめごろまでは名前のとおり、霞ヶ浦の中にある島でしたが、今は干拓が進み南側の台地と陸続きになっています。

### 明治時代の浮島



迅速測図原図（参謀本部 明治14年～18年）を縮小



5万分1地形図「佐原」（平成9年修正）を縮小

「干拓」とは、海や湖を堤防で仕切って内部を干上がらせて陸地にするをいうんじや

ここが干拓されたところだね

## 地図を見て昔と今をくらべてみよう

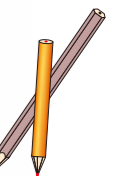


2万5千分1地形図「千葉東部、千葉西部」（左：昭和27年修正、右：平成19年更新）

上の地図は千葉市の中心部です。地図を見ながら「どんなところが変わっただろうか、昔も今も変わらないものは何だろうか」を調べてみましょう。

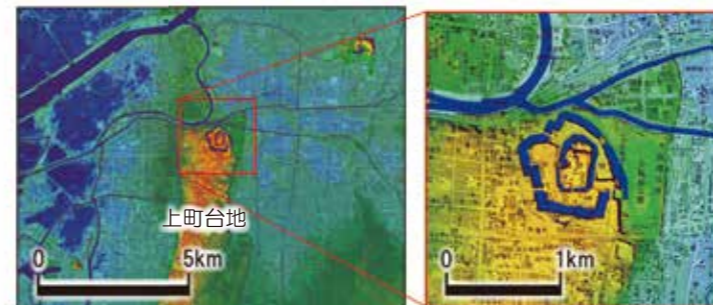
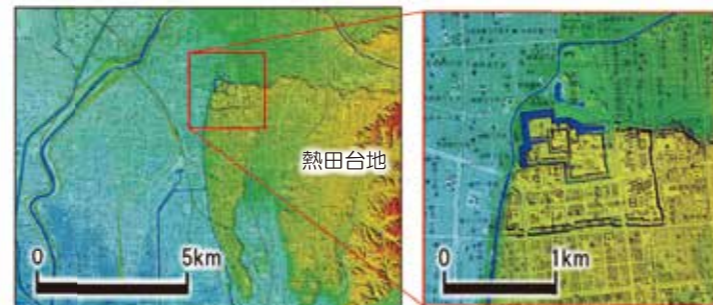
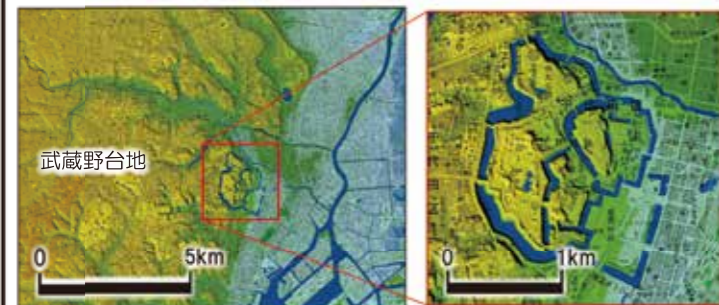
- 海が埋め立てられて、新しいまちができた。市役所が移転したり、港のまわりには官公署が立ち並んでいる。
- 新しい鉄道が開通している。
- 「ちば」駅が移転し、JR線のかたちが大きく変わった。
- 県庁や裁判所は昔も今と同じところにある。

ほかにはどんなものを見つけることができたかな



## デジタル標高地形図で江戸城、名古屋城、大坂城をくらべてみよう

地図を見るとそれぞれの城に共通する地形の特徴が見えてきます。いずれも低湿地に臨んだ台地の端に築城されていて、周囲



江戸城の西側には武蔵野台地が広がり、東側には荒川下流域の低地が広がっています。16世紀末に徳川家康が江戸城に入ったころは、日比谷の入江といわれた海が城の近くまで入っていました。

名古屋城は、熱田台地と呼ばれる台地の北西端に築かれており、北と西を低湿地に囲まれています。北側の矢田川に削られた崖で防備を固めるなど自然の地形を巧みに利用していました。

の湿地帯が敵の侵入を拒む天然の要害となっていました。

大坂城は低湿地に突き出した形の上町台地の先端、戦国時代に難攻不落を誇った石山本願寺の拠点あとに築城されています。かつての淀川本流による北側の崖を天然の要害としていました。